

Weekly Market Recap

Japan | April 16, 2018

Q. 先週の主なイベントは？

- 4月11日 米国:3月消費者物価指数(CPI、前年比)、実績+2.4%、食品・エネルギーを除いたコアCPI(同)、実績+2.1%

Q. 先週の世界の株式市場の動向は？

先進国、新興国株式ともに上昇。10日の習近平国家主席の演説で、米中の貿易問題への過度な懸念が和らいだことなどが背景。セクター別では、原油価格の上昇でエネルギーセクターが上昇したほか、フェイスブックのザッカーバーグCEOの米議会証言が好感されたことなどから、ITセクターが上昇した。

Q. 今週の主なイベントは？

- 4月16日 米国:3月小売売上高(前月比)、市場予想+0.4%、前月-0.1%
- 4月17日 中国:2018年1-3月期の中国GDP(前年比)、市場予想+6.8%
- 4月17-20日 安倍首相が訪米、滞在中にトランプ米大統領と首脳会談

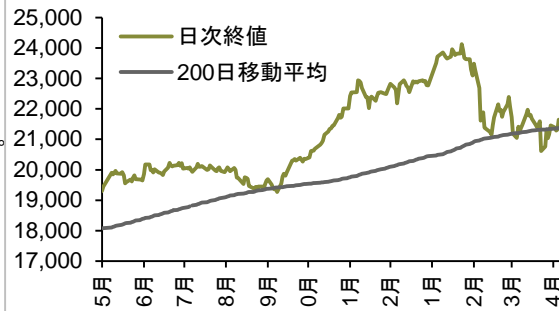
Q. ドル円相場の見通しは？為替ヘッジは必要？

- 【当面のドル円相場の見通し】 まずは、今週の日米首脳会談に注目したい。仮に、通商面で、トランプ米大統領が為替条項や輸出自主規制などを強く要求した場合は、大幅な円高となるリスクがある。但し、このイベントを無難に通過できれば、その後は110円前後まで円安・ドル高が進行する可能性があると考えている。このような見方の背景には、①円高圧力の後退と、②世界的なリスクオンが円売りに繋がる可能性などがある。①については、投機筋の円売りポジション(=将来の円高圧力)が以前よりも低水準になったことや、新年度に入り、日本企業の海外で稼いだ利益の還流による円高圧力が和らいでいることなどが挙げられる。②については、保護主義への過度な警戒感が和らぐ中で、米国の底堅い個人消費や企業決算が確認されれば、世界的に株価が反発し、リスクオンムードになると考える。

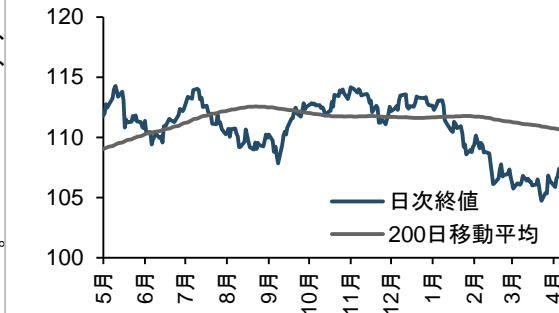
- 【年末にかけてのドル円相場の見通し】 次の3つの理由から、ドル=110円を大きく上回ることは難しく、年末にかけては円高方向に戻ると見る。まず、①年末にかけて、世界景気の高強さに再び関心が集まると、やがて米国のインフレ加速や米連邦準備理事会(FRB)の金融引き締めなどに焦点が当たり、今年2月のような金利上昇・リスクオフ・円高が再現されるリスクが高まるだろう。一方、②年末にかけては、金融引き締めの影響もあり、世界景気の減速感が強まると見ているため、投資家のリスクテイク姿勢は和らぎ、円高圧力が徐々に高まると考える。最後に、③通商面では、日米首脳会談で問題を先送りできたとしても、米政権の保護主義が続く限り、ドル安や対日貿易赤字の削減を志向する姿勢は変わらず、断続的に波乱を呼ぶだろう(注:米財務省は、先週の半期為替報告書で、円の実質実効レートは直近20年の平均値と比較すると25%近くも安いと指摘した)。

- 【為替ヘッジは必要？】 短期的に円安となる可能性があることや、日米短期金利差の拡大により、ドル・円のヘッジコストが上昇傾向にあることを考えれば、為替ヘッジは不要との見方もできるだろう(注:足元のドル・円のヘッジコストは2%を上回る)。但し、①中期的には円高圧力が強まる可能性が高いことや、②ドル円レートの年次騰落率を見ると、円高になる年は、直近のヘッジコストを大幅に上回る円高となる傾向があることなどを考慮すれば、為替ヘッジの活用は、引き続き有効な投資戦略となるだろう。

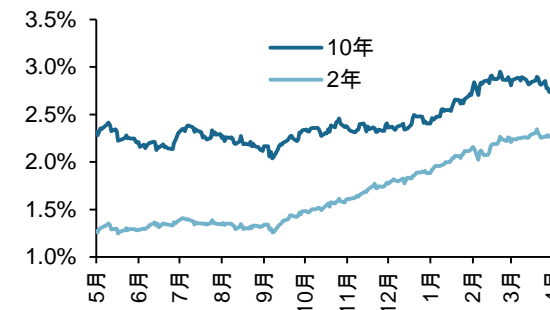
日経平均株価の推移
(円、2017年5月1日~2018年4月13日)



ドル・円相場の推移
(1ドル=円、2017年5月1日~2018年4月13日)



米国2年国債・10年国債利回りの推移
(2017年5月1日~2018年4月13日)



国	前週末	1週間	1ヵ月間	年初来
日経平均株価	21,778	1.0%	0.0%	-4.3%
東証株価指数(TOPIX)	1,729	0.6	-0.8	-4.9
東証REIT指数	1,694	0.7	1.4	1.9
米ダウ平均株価	24,360	1.8	-1.6	-1.5
米S&P500指数	2,656	2.0	-3.4	-0.6
米MSCI REIT指数	1,040	-0.8	-1.2	-10.1
MSCI ワールド(先進国)	2,088	1.8	-2.1	-0.7
MSCI AC欧州	486	1.4	0.6	-0.3
MSCI エマージング	1,170	0.7	-4.0	1.0
MSCI ACアジア(日本を除く)	722	1.7	-3.1	1.2

外国為替市場(対円)

通貨	前週末	1週間	1ヵ月間	年初来
米ドル	107.35	0.4%	1.0%	-4.7%
ユーロ	132.38	0.8	0.7	-2.1
豪ドル	83.36	1.5	-0.5	-5.3
ニュージーランド・ドル	79.03	1.8	1.4	-1.1
ブラジル・リアル	31.37	-1.1	-3.8	-7.8
メキシコ・ペソ	5.95	1.8	4.0	3.9
トルコ・リラ	26.20	-0.9	-4.4	-11.7
南アフリカ・ランド	8.88	-0.2	-1.7	-1.7
中国人民幣	17.13	0.9	1.9	-0.9
インドネシア・ルピア(x100)	0.78	0.5	0.7	-6.1

国債市場(利回り、%)

国	前週末	1週間	1ヵ月間	年初来
米国10年	2.83	0.05	0.01	0.42
ドイツ10年	0.51	0.01	-0.08	0.08
日本10年	0.04	-0.01	-0.01	-0.01
ブラジル2年	7.20	-0.13	0.13	-0.58
メキシコ2年	7.27	0.01	-0.26	-0.32
トルコ2年	14.36	-0.03	0.64	0.96
インドネシア2年	5.65	0.14	-0.01	0.11

その他

商品	前週末	1週間	1ヵ月間	年初来
金先物(ニューヨーク、期近物)	1,347	0.9%	1.7%	2.9%
原油先物(ニューヨーク、期近物)	67	8.6%	10.5%	11.5%
VIXボラティリティ指数	17.0	-19.0%	1.0%	57.7%

Weekly Market Recap

Japan | April 16, 2018

出所: Bloomberg Finance L.P., J.P. Morgan Asset Management

本資料はJPモルガン・アセット・マネジメント株式会社が作成したものです。本資料に記載の見通しは投資の助言や推奨を目的とするものではありません。また、J.P.モルガン・アセット・マネジメントあるいはそのグループ会社において記載の取引を約束するものでもありません。予測、数値、意見、投資手法や戦略は情報提供を目的として記載されたものであり、一定の前提や作成時点の市場環境を基準としており、予告なく変更されることがあります。記載の情報は作成時点で正確と判断されるものを使用していますが、その正確性を保証するものではありません。本資料では、お客さまの投資判断に十分な情報を提供してならず、証券や金融商品への投資のメリットをお客さまが自身で評価するにあたって使用するものではありません。また、かかる法務、規制、税務、信用、会計に関しては、個別に評価し、投資にあたっては、投資の目的に適合するかどうかに関しては専門家の助言とともに判断してください。投資判断の際には必要な情報をすべて事前に入手してください。投資にはリスクが伴います。投資資産の価値および得られるインカム収入は市場環境や税制により上下するため、投資元本が確保されるものではありません。過去のパフォーマンスおよび利回りは将来の成果を示唆・保証するものではありません。

J.P.モルガン・アセット・マネジメントは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。本資料は、以下のグループ会社により発行されたものです。

ブラジル: バンコ・J.P.モルガンS.A. (ブラジル)、英国: JPモルガン・アセット・マネジメント(UK) リミテッド、英国以外のEU諸国: JPモルガン・アセット・マネジメント(ヨーロッパ) S.à r.l.、スイス: J.P.モルガン(スイス) SA、香港: JFアセット・マネジメント・リミテッド、JPモルガン・ファンズ(アジア) リミテッド、JPモルガン・アセット・マネジメント・リアル・アセット(アジア) リミテッド、インド: JPモルガン・アセット・マネジメント・インド・プライベート・リミテッド、シンガポール: JPモルガン・アセット・マネジメント(シンガポール) リミテッド(Co. Reg. No. 197601586K)、JPモルガン・アセット・マネジメント・リアル・アセット(シンガポール) プライベート・リミテッド(Co. Reg. No. 201120355E)、台湾: JPモルガン・アセット・マネジメント(台湾) リミテッド、JPモルガン・ファンズ(台湾) リミテッド、日本: JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第330号 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会)、韓国: JPモルガン・アセット・マネジメント(コリア) カンパニー・リミテッド、オーストラリア: JPモルガン・アセット・マネジメント(オーストラリア) リミテッド(ABN 55143832080)(AFSL 376919)(Corporation Act 2001 (Cth) 第761A条および第761G条で定義される販売会社に配布が限定されます)、カナダ(機関投資家限定): J.P.モルガン・アセット・マネジメント(カナダ) インク、米国: JPモルガン・ディストリビューション・サービス・インク(FINRA/SIPC会員)、J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インク

本資料は、アジア太平洋地域において、香港、台湾、日本およびシンガポールで配布されます。アジア太平洋地域の他の国では、受取人の使用に限りです。

【ご留意事項】お客さまの投資判断において重要な情報ですので必ずお読みください。投資信託は一般的に、株式、債券等様々な有価証券へ投資します。有価証券は市場環境、有価証券の発行会社の業績、財務状況等により価格が変動するため、投資信託の基準価額も変動し、損失を被ることがあります。また、外貨建の資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。そのため、投資信託は元本が保証されているものではありません。

◆ご注意していただきたい事項について: 投資信託によっては、海外の証券取引所の休業日等に、購入、換金の申込の受付を行わない場合があります。投資信託によっては、クローズド期間として原則として換金が行えない期間が設けられていることや1回の換金(解約)金額に制限が設けられている場合があります。分配金の額は、投資信託の運用状況等により委託会社が決定するものであり、将来分配金の額が減額されることや、分配金が支払われないことがあります。

◆ファンドの諸費用について: 投資信託では、一般的に以下の手数料がかかります。手数料率はファンドによって異なり、下記以外の手数料がかかること、または、一部の手数料がかからない場合もあるため、詳細は各ファンドの販売会社へお問い合わせいただくか、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

投資信託の購入時: 購入時手数料(上限3.78%(税抜3.5%))、信託財産留保額

投資信託の換金時: 換金(解約)手数料、信託財産留保額(上限0.5%)

投資信託の保有時: 運用管理費用(信託報酬)(上限年率2.052%(税抜1.9%))

*費用の料率につきましては、JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社が設定・運用するすべての公募投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しています。その他、有価証券の取引等にかかる費用、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税等の実費(または一部みなし額)および監査費用のみなし額がかかります(投資先ファンドを含みます)。また、一定の条件のもと目論見書の印刷に要する費用の実費相当額またはみなし額がかかります。

◆すべてのインデックスは実際に運用されているものではなく、各投資家が直接投資できるものではありません。また、インデックスのリターンは手数料・費用が考慮されておりません。日経平均株価に関する著作権、知的所有権その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。日本経済新聞社は日経平均株価を継続的に公表する義務を負うものではなく、その誤謬、遅延又は中断に関して責任を負いません。©日本経済新聞社。S&P Dow Jones Indices LLCの各インデックスは、S&P Dow Jones Indices LLCが発表しており、著作権はS&P Dow Jones Indices LLCに帰属しています。MSCIの各インデックスは、MSCI Inc.が発表しています。同インデックスに関する情報の確実性および完結性をMSCI Inc.は何ら保証するものではありません。著作権はMSCI Inc.に帰属しています。株式会社東京証券取引所が発表する各インデックスは、株式会社東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。なお、ファンドは、東証等により提供、保証または販売されるものではなく、東証等は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。Bloombergの各インデックスは、Bloomberg Finance L.P.が発表しており、著作権はBloomberg Finance L.P.に帰属しています。

Copyright 2018 JPMorgan Chase & Co. All rights reserved

Material ID: 0903c02a820f8dd2